

♥活動いろいろ♥

小学生たちの体験を寄せて頂きました



しんがし川でアレチウリのくじよ

アレチウリのくじよ
波多野 なつ美
わたしはエコクラブのみんなと、うんどう公園近くのしんがし川で、アレチウリのくじよをしました。どうしてくじよするのかというと、アレチウリはとくでい外らしいよくぶつで、どんどんふえて、日本のしよくぶつをかからしてしまうからです。ぬいてもぬいても

生えてくるので、大きくなる前に、何回もくじよしないといけないそうです。
一ど目のくじよのときは、小さいはがニまいの、かわいいアレチウリでした。ねっこもぬきやすかったです。ニど目は、はも大きくなつて、つるものびていました。ねっこもすこしぬきづらかったです。三ど目は、前にく

ふじみ野子ども エコクラブ新聞

2021年11月発行
ふじみ野子どもエコ
クラブ FUJIMINO
KODOMO ECO
CLUB
責任者:和田淑子
TEL:090-3517-1029

じゃがいも掘り
丸山 珠央
私は、エコクラブの畑でじゃがいも掘りをしました。つゆの季節でしたが、晴れて良かったです。虫に刺されないように長袖で行きました。
軍手で土を掘ると、すぐにじゃがいもが出てきました。引つ張ると途中で根っこが切れてしまいました。さらに掘り進めると、たくさんじゃがいもが採れました。根元の方は大きくて、根っこの方は小さく、根っこの方も小さく、たくさん採れました。たくさん採りました。

じよしたところから、またつるがのびていてびっくりしました。ほかのしよくぶつにまきついてとりにくかったです。くじよしてもすぐのびてくるので、とてもつよいしよくぶつだと思いました。
☆☆☆☆



エコクラブの畑でじゃがいも掘り

伊佐沼公園の川にて
大坪 一朝
7月18日の水中生物の調査は、ぼくが一番楽しみしていた作業でした。その日はものすごく暑く、数分歩くだけであせをかきました。しかし川に入るとそのあせがすぐに引くほど冷たくて気持ちよかったです。
魚を取るあみは思ったよりも重くてすくうのにも一苦労でした。しかもその川は、深いところではヒザ位までいきました。
メダカやザリガニなどたくさんいろいろな生き物がとれました。
観察のしやすい透明で薄くて小さな容器に取った魚を入れて、魚



伊佐沼公園の川の生き物調査

の調査は、ぼくが一番楽しみしていた作業でした。その日はものすごく暑く、数分歩くだけであせをかきました。しかし川に入るとそのあせがすぐに引くほど冷たくて気持ちよかったです。
魚を取るあみは思ったよりも重くてすくうのにも一苦労でした。しかもその川は、深いところではヒザ位までいきました。
メダカやザリガニなどたくさんいろいろな生き物がとれました。
観察のしやすい透明で薄くて小さな容器に取った魚を入れて、魚の専門家はその容器を持ち見せながら魚の名前など詳しい説明をしてくれました。ぼくが気になった魚はマブナです。マブナにはオスがほとんどいないそうです。どのように数を増しているのだろうかと思いましたが、またその魚の専門家は、魚の詳しい説明が書いてある下敷きを見んなにくれました。そこには魚の主な生息地、体長、何科の魚なのかなどいろいろ書いてありました。写真はその人が撮影したそうです。この体験で、ぼくは魚にすごく興味をもちました。

新しい活動を紹介します

ふじみ野こどもエコクラブは、自然に触れて、こども達に環境について考えるきっかけを提供する団体です。これまで主に竹林の手入れやエコ畑の作業を中心に活動してきましたが、今年から新たに「しんがし川」でのアレチウリ退治を始めました。どうしてそれ

を始めたのか簡単にお話ししたいと思います。5月ころ「しんがし川」に行ってみると、あたり一面、むらさき色の花が咲いています。花には多くのハチがミツを求めてやって来て、まるでお花畑のような美しさです。でも、それ以外の花はほとんど見当たりません。夏になって、「しんがし

し川」に行ってみると、今度は背の高い草と緑色の葉っぱがびっしりしげつていて、まるでジャングルのようにです。そして、ここでもほかの植物はほとんど見当たりません。数年間までは、こんなことはありませんでした。どうして、そうなったのでしょうか？

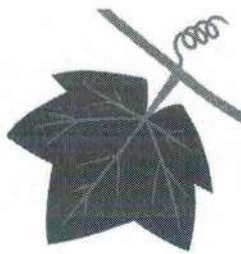
むらさき色の花はナヨクサフジという植物、ジャングルのように生えているのは、オブタクサとアレチウリという植物で、どれもアメリカから日本に入ってきたものです。外国から来た植物は、日本の植物に比べてとても強く、放っておくとどんどん広がって、その場所をひとりじめし、やがては昔からそこにあった日本の草や木を枯らしてしまいま

畑と竹林の場所



畑はふじみ野高校グラウンドの東隣です。ふじみ野こどもエコクラブの看板が出ています。大井中学校テニスコート隣の竹林を整備中です。平日も火曜日と金曜日AM畑で作業していますので、お気軽に見学にいらしてください。待ってるよ～

どれも同じように見える草や木も、じつは色々な種類があって、全部名前がついていません。そして、パンダが中国にしかないように、植物もそこにしかないというものが多くあります。色々な種類の草や木があつて、色々な種類の昆虫や動物がいることが、自然にとつてとても大切なことです。外国から来た植物のしんりやくから日本の植物を守ってあげたいですね。



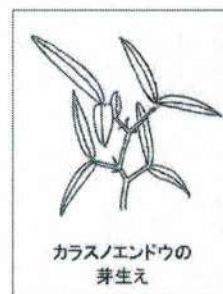
アレチウリ

秋は芽生えの季節
秋といえば落葉の季節の前に、ちよつとさびしい感じがあるかと思ひます。でも秋は芽生えの季節でもあるのです。畑や道ばたの地面をよく見ると、カラスノエンドウやホトケノザ、ナズナなどの野の草が芽を出しています。これらの草は夏の暑さが苦手で、春に花を咲かせた後、夏が来る前にタネを作り、枯れてしまします。そして暑い夏をタネで過ごします。夏の間眠っていたタネは秋が来て、涼しくなると目をさまし、地上に芽を出します。タンポポやハルジオンなどは根が一年中枯れずに地面の下にあつて、そこから芽を出します。こうして秋から初冬にかけて出てきた芽生えは、地面にはりつくような形になって、冬の寒さを乗りこえます。そして春の早いうちから花を咲かせるのです。

芽生えのころの葉は花が咲くころとはだいぶ形が違っています。



カラスノエンドウの花のころ



カラスノエンドウの芽生え

一方で冬の寒さが苦手な、冬をタネで過ごし、春に芽を出す草もあります。アレチウリやオブタクサ、オオバタクサなどはこのタイプです。このような野の草たちの生き方を見るのはとても楽しいことです。

☆☆☆☆

連絡先

和田淑子 (ワダ シュクコ)

090-3517-1029